

参考資料

全国ご当地エネルギー協会 電力系統接続に関する実態調査について

一般社団法人全国ご当地エネルギー協会（事務局：認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所）では、国内各地域でのご当地エネルギーとしての再生可能エネルギーの導入を推進するため、調査や情報共有を進めると共に、国内外への情報発信を行い、国や自治体等に対して政策提言を行っています。

この度の「空容量ゼロ問題」および「工事費負担金問題」の発生に際し、当協会では会員団体を対象として、再生可能エネルギー発電設備の電力系統接続に関するアンケート調査を実施しました。調査の結果として、当協会会員団体の事業において提示された工事費負担金は、FIT 制度の調達価格の前提として示された平均値や、電力広域的運営推進機関

(OCCTO) の定める一般負担金の上限額を大きく上回ることが明らかになりました。今回の調査ではこの高額な工事費負担金の提示や異様に長い工期がきっかけとなって、事業を断念せざるを得ない事例が多数あることも判明しました。

■ 調査の概要

調査内容：再生可能エネルギー発電設備の電力系統接続に関する調査

- ・ 系統接続手続きの時期、系統接続手続きをする（した）電力会社、対象となる系統接続の手続き
- ・ 発電事業の概要、系統接続の手続き状況、工事費負担金の影響、その他など

調査対象：全国ご当地エネルギー協会会員団体

回答件数：11 件（うち 10 件が高額な工事費負担金が請求されていると見られる。）

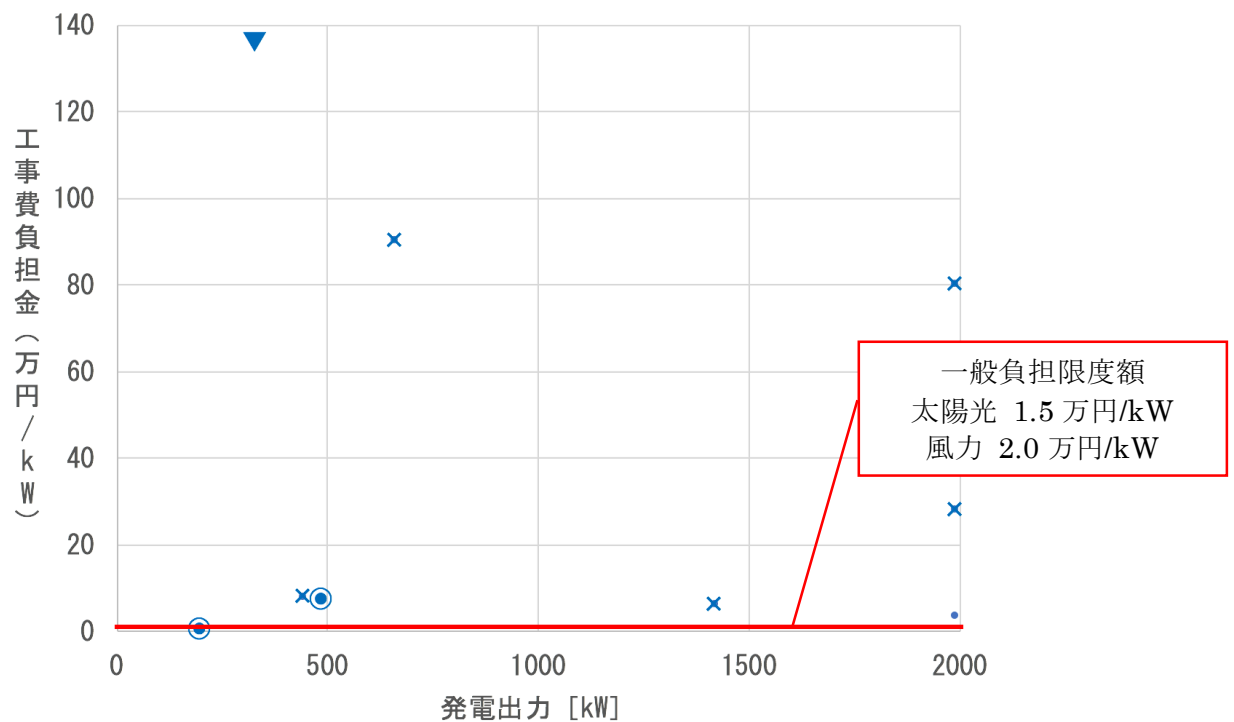
■ 調査票の内容（一部）

工事費負担金： _____ 円
内訳：送電線工事費（架空線・地中線工事） _____ 円
バンク逆潮流対策費 _____ 円 通信・計量設備費 _____ 円
その他（ _____ ） _____ 円
※上位系統対策費はその他に入れてください。
提示された工期：負担金入金後 _____ ヶ月
1. 事業を断念した 2. 事業の計画を縮小した 3. 計画とおり事業を実施 4. その他
具体的に：

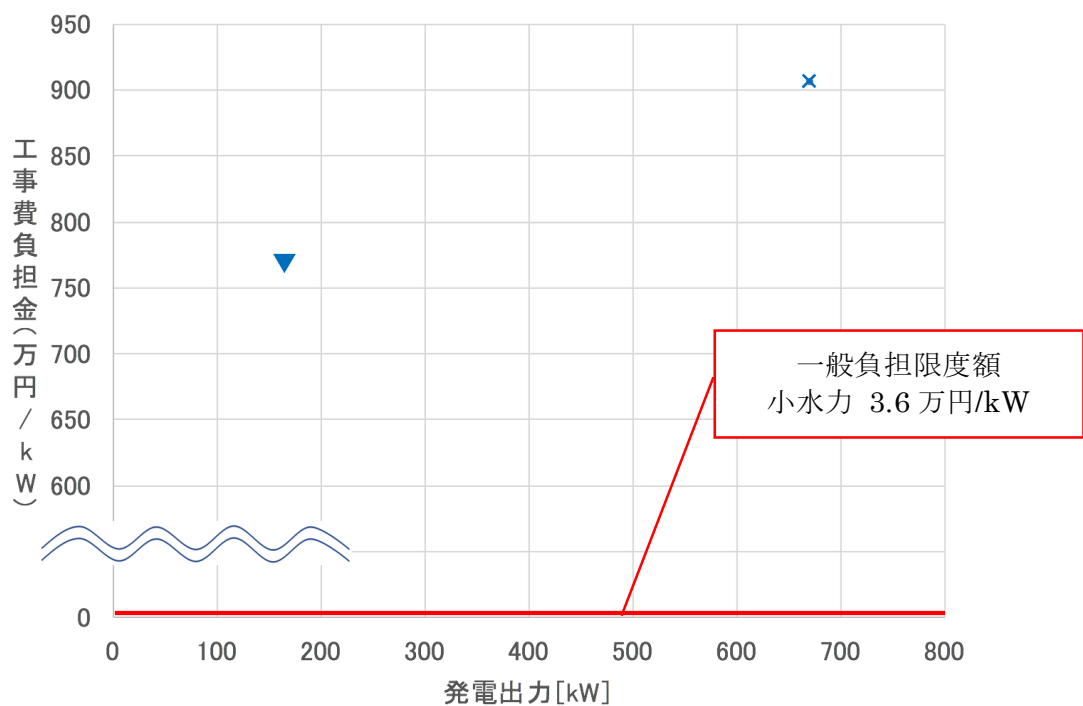
■ 調査結果

- ・ 本調査で回答を得られた事例 11 件のうち 10 件で、接続費用 (FIT) 平均値 (太陽光 0.63 ~0.74 万円/kW など)、広域的運営推進機関の一般負担上限額 (太陽光 1.5 万円/kW など) を大きく上回り、高額な工事費負担金が請求されている。
- ・ 工事費負担金について、太陽光 100 万円/kW 以上、小水力 900 万円/kW 以上という極めて高額な工事費負担金が提示される事例が発生している。傾向として工事費負担金の請求額が高ければ高いほど、事業継続が困難となっている。
- ・ 一部の事業では、出力調整による対応等で、工事費負担金下がった事例も見られた。
- ・ 工期に関しては 10 年を超えるものも見られる。10 年以上の事業はもちろんだが、傾向として工期が長くなればなるほど、事業継続が困難になってきている。

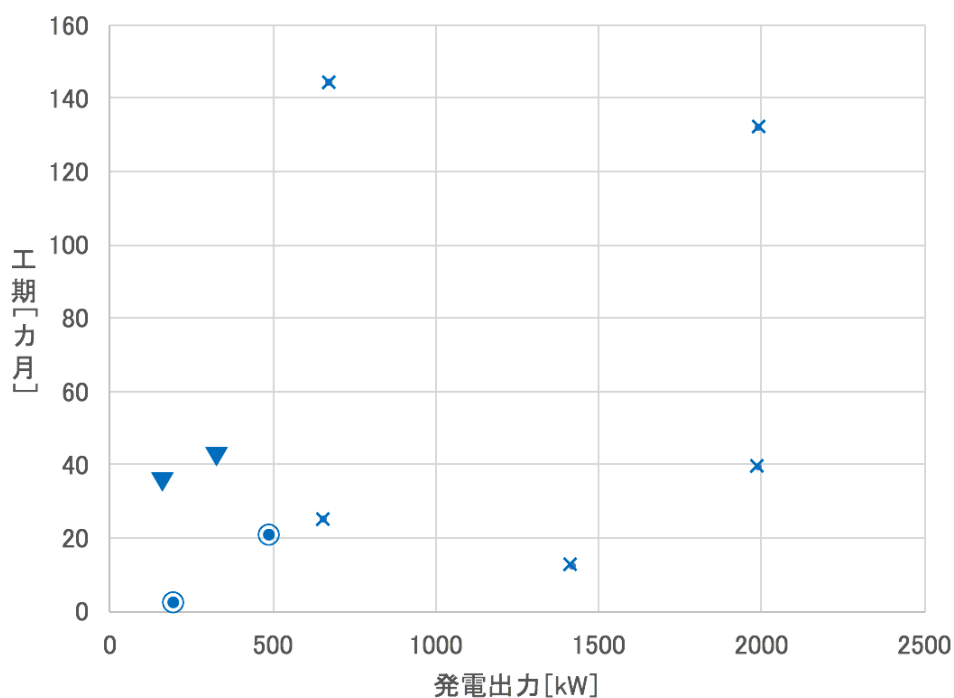
【図表 1】 連系工事費負担金の分布（太陽光・風力）



【図表 2】 連系工事費負担金の分布（小水力）



【図表 3】 連系工事の工期の分布（全体）



- : 変更なしで着工済みもしくは着工見込み
- ▼ : 出力変更等後に着工済み、もしくは着工見込み
- × : 断念
- ・ : 事業検討段階
- : 広域的運営推進機関の一般負担上限額

参考

接続費用 (FIT) 平均値 : 太陽光 0.63~0.74 万円/kW、風力 1 万円/kW 以下
 一般負担上限額 (OCCTO) : 太陽光 1.5 万円/kW、風力 2.0 万円/kW、小水力 3.6 万円/kW

※ 調査結果の詳細は事業者への確認と許可が必要となりますので、当協会へ一度お問い合わせください。